

製品名: SETMAR ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17779**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	SETMAR
別名	SETMAR; Histone-lysine N-methyltransferase SETMAR; SET domain and mariner transposase fusion gene-containing protein; HsMar1; Metnase
遺伝子 ID	6419.0
SwissProt ID	Q53H47
免疫原	抗血清はヒト SETMAR 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 350-400

背景

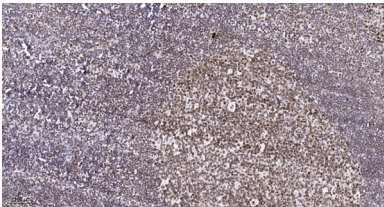
この遺伝子は、N末端ヒストン-リジン N メチルトランスフェラーゼドメインと C末端マリナートランスポザーゼドメインを含む融合

タンパク質をコードしています。コードされたタンパク質は DNA に結合し、非相同末端結合や二本鎖切断修復などの DNA 修復活性に作用します。このタンパク質の SET ドメイン部分は、ヒストン H3 のリジン 4 および 36 を特異的にメチル化します。この遺伝子は、類人猿にのみ融合遺伝子として存在し、他の生物はマリナートランスポザゼドメインを欠いています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2013 年 1 月],触媒活性: S-アデノシル-L-メチオニン + ヒストン L-リジン = S-アデノシル-L-ホモシステイン + ヒストン N(6)-メチル-L-リジン。ドメイン: マリナートランスポザゼ Hsmar1 領域は DNA 結合を媒介します。活性部位の 610 番目の位置にアスパラギン酸残基ではなくアスパラギン酸残基が存在するため、トランスポザゼ活性は持たない。機能: ヒストン H3 の「Lys-4」と「Lys-36」をメチル化するヒストンメチルトランスフェラーゼ。これらはエピジェネティック転写活性化のための特異的タグである。特に H3 の「Lys-36」のジメチル化を媒介する。DNA に結合する。非相同末端結合修復に関与している可能性があります。その他:マリナートランスポザゼ領域は霊長類にのみ存在し、4000 万~5800 万年前に、既存の SET 遺伝子の下流にトランスポゾンが挿入され、以前は非コード配列であったものが新たにエクソン化され、新しいイントロンが作成された後に出現しました。類似性:1つのポスト SET ドメインを含みます。類似性:1つのプレ SET ドメインを含みます。類似性:1つの SET ドメインを含みます。類似性:C 末端セクションに存在し、マリナートランスポザゼファミリーに属します。類似性:N 末端セクションに存在し、ヒストンリジンメチルトランスフェラーゼファミリーに属します。組織特異性:広く発現しており、胎盤と卵巣で発現が最も高く、骨格筋で発現が最も低いです。、

研究分野

リジンの分解;

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。